京都教区時報

京都教区広報委員会
（編集長　村上透磨）
京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る
TEL 075－211－3025
FAX 075－211－3041
honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page http：//www.kyoto.catholic.jp　4345

2頁～4頁　「気兼ねなく滞在できる家」小教区（上野教会）
7頁　女声コーラス　コーロ・チェレステ

点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。
TEL・FAX 079－431-8601

2019年　司教年頭書簡を読む(7)

国境のない普遍的教会

イエスはユダヤ人であり、ユダヤ人の宗教的伝統の中に生まれ、育まれました。世界中の国々が、それぞれの宗教的伝統を大切にしていくことは、尊重されるべきだと思います。

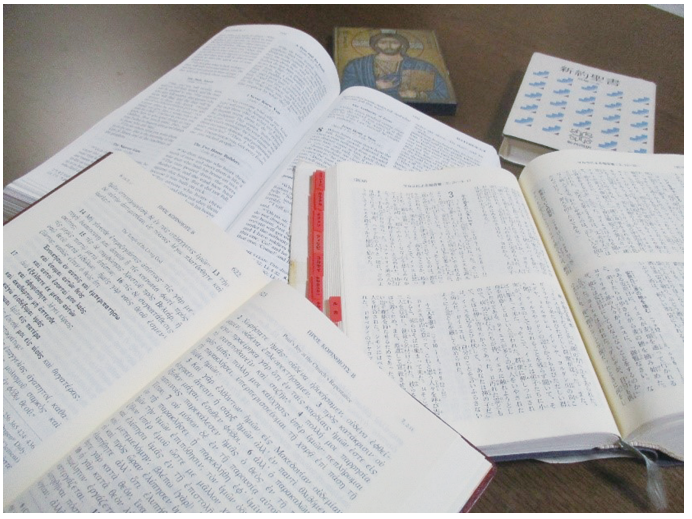
一方、イエスの十字架の死と復活を告げ知らせる教会は、ユダヤ教の枠を超えて、普遍的な宗教（カトリック）となっていきました。イエスはアラマイ語を話していたのに、福音書がギリシア語で成立したということが、このことをよく物語っているように思います。はじめから、特定の言語、民族、文化を超越していくように定められていたかのようです。言葉の壁が大きいように言われることもありますが、それが致命的な問題などではないことに、しだいに私たちの多くが気づいてきているようです。

もとより、国境のない普遍的教会であるということは、「教会にとって、する・しないの選択可能な付け足しの活動ではない」（年頭書簡）のです。

日本の教会は、もうすでに、確実に、多文化共生の共同体に変わっているのですから、焦らず、無理をせず、このまま、聖霊の導きを信じて、道を進んでいきましょう。

たくさんの明るいしるしが教会に輝いていることに、感謝いたしましょう。

（菅原友明）



9
2019

社会と共に歩む教会
「気兼ねなく滞在できる家」小教区
年頭書簡⑧

居場所としてのカトリック教会

上野教会　役員一同

今年の4月に入管法が新たに改正され、「外国人受け入れ拡大」が本格的に行われるようになりました。世の中では外国人が増えるとどうなるのかと、不安になる人の声を聞くこともあると思います。しかし、カトリック教会に関わっている信者は、特に地方の教会では、これらのことに驚くことはないでしょう。すでに十数年前から多国籍の信者からなる教会が増えているからです。

その一つが三重県の伊賀市にあるカトリック上野教会です。

現在、90年代に出稼ぎ労働者として来られた日系ブラジル、ペルーの信者や、国際結婚され、日本人の妻となったフィリピンの女性たち、そしてこの数年前からはアジアからの技能実習生のベトナム、フィリピンの若者を受け入れるようになりました。その他、韓国、インドネシアなどの信者もいます。多国籍、多文化な人たちが集っていますが、みんなは一つの共同体であることを、忘れないように意識しています。

上野教会　ミサ

上野教会では、日本語のミサ以外に、英語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語のミサも、月1回から2回行われます。ベトナムの信者も沢山増えているのですが、ベトナム語を話せる司祭がいないため、現時点ではミサはありません。主日の9時の日本語のミサに参加してもらっています。毎週ミサ後、自由に教会の聖堂でお祈りの集いを開き、教会の施設を使って分かち合い、交流の時間を持っています。日本人やマジョリティー側が中心になって行うのではなく、教会の施設の使い方だけを教え、後は彼らに任せ、自由に使ってもらっています。その週一の集いは家族が近くにいない彼らにとって貴重な時間であり、教会は交流の場、居場所となっています。

筆者は他の教会の外国人と交流することも多いですが、教会の施設を自由に使うことができないという不満の声をよく聞きます。日本人に許可を申請して、会議にかけてからなどの対応が多いようです。組織を運営するためには必要なことですが、教会を気兼ねなく滞在できる家と感じてもらうために、たまには柔軟に動く必要もあると思います。

上野教会も今まで何の問題もなくやってきたというわけではありませんが、お互いぶつかり合い、お互い折り合える関係が出来てきています。

私たちは普遍の教会であるカトリック信者です。そういう意味で、教会にいる私たちにとって「多文化共生」をもっと現実的に感じ取ることができると思います。同じ天の父の子ども、兄弟姉妹です。イエス・キリストと共同の相続人、御国の世継ぎ、最終のゴールは同じで

す。天の国に向かって巡礼しています。神の前に立った時、日本人、ブラジル人、フィリピン人などの国籍は関係ないと思います。私たちには、同じく目をかけてくれる優しい天のお父様がいます。たまたま別の土地で生まれ、日本に来られた私たちの兄弟姉妹に目をかけて欲しいです。

例えば技能実習生の若者たち、彼らは日本に最大5年間いられるようにはなりましたが、家族の滞在は不可です。家族と離れて異国で暮らすことは簡単ではないのです。彼らを子ども、孫のように可愛がって欲しいです。上野教会では、今特に最も弱い立場にある、技能実習生の兄弟姉妹、そして外国にルーツのある子どもたちの支援を行なっています。それはマジョリティーの日本人だけが支援するのではなく、一つの教会として、みんなで支えるようにしています。例えば、90年代からいるフィリピンのお母さんたちには、新しく来日している若いフィリピン人の若者に我が子のように関わり、みんなでベトナム人の若者たちを暖かく迎え入れています。また、様々なルーツの子どもたちの信仰教育、居場所の提供にも力を入れています。学校でいじめ・差別などを受け、苦しんでいる子どもたちは少なくないのです。子どもたちが教会に来ると、同じ立場にある仲間、宝物として受け入れてくれる大人たちとの出会いを通して、自分自身を「価値のある存在」として感じられるようになります。

大人がお世話するのではなく、彼らの力を教会が必要としていることを理解させるようにしています。教会の様々な奉仕、例えば、朗読当番、聖歌隊、侍者、小さい子どもたちの信仰教育などを通して役に立っているという実感を体験してもらっています。フィリピン人、ブラジル人、何々人ではなく、教会の子どもとして輝く機会を与えています。自信に溢れる彼らの姿、彼らの成長を喜び、誇りに思っています。

これは一人二人の活動ではありませ

司教様訪問

子どもたちの四旬節の黙想会

マリア様のまつりとベトナム共同体の交流会

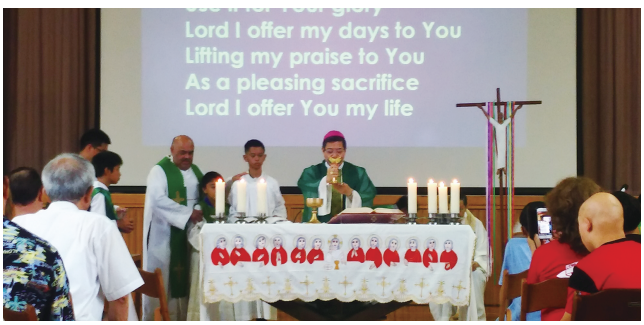
ん。全員が持っている賜物を全力で活かしているのです。小さな子どもであっても、人生の大先輩のお年寄りであっても、日本語ができても、できなくてもみんな一人一人が教会にとって大切な存在です。

外国人労働者とその家族の数は今後も拡大していきます。全ての人の中にキリストがおられる、ということを忘れず、全ての人が居場所と感じられる教会、居心地良い「家」としての教会の実現にむけて、今後もみんなで力を合わせて行きたいです。これは神から全てのカトリック信者に与えられた使命です。これからも国境を越えた神の国を目指してお互いの力・賜物を活かしていきましょう。

国際ファミリーデー in 三重南部

国際ファミリーデー実行委員会事務局
松阪教会　北川　保

7月21日、津市のセントヨゼフ女子学園に於いて、三重南部ブロック主催「国際ファミリーデー」が開かれました。主題は「教会の《もてなしの使命》」、参加者は多国籍の約300名。鶴山進栄神父の祈りに始まり、午前は奥村豊神父の講演「旅する神の民」、続いて大塚喜直司教と5人の司祭による共同司式ミサでした。午後は、南部ブロック6教会からの発表・アトラクション、司教もダンスの輪に入って踊りました。



奥村神父の講演では「出エジプト記」はモーゼがユダヤ人をエジプトから救い出す旅、教会もまたローマ帝国の国教化など定住による停滞と旅による再生を繰り返す、と説かれました。

司教の説教では、2019年司教年頭書簡「教会の《もてなしの使命》～国籍を越えた神の国をめざして～」から始め、14日の主日に読まれた「わたしの隣人とはだれか」（ルカ10・25～37）と参加者に問いかけられました。

2016年9月、社会司教委員会は冊子「国籍を越えた神の国をめざして」の改訂版を出しました。20余年ぶりの改訂、私の所属する教会も今は外国籍の信徒の方が多くなっています。司教年頭書簡は「福音的《もてなし》」と言い、教皇フランシスコは『喜びに喜べ』102で「外国人を受け入れること」（マタイ25・35参照）に言及します。福音的「もてなし」とは、はやりの「おもてなし」ではありません。米田彰男神父著『寅さんとイエス』は旅するイエスを描きます。定住者も移住者もともに旅人だと思った一日でした。

京都済州姉妹教区交流委員会

2019年上半期活動報告

1月19日　済州教区司祭・助祭叙階式

ラ・チヒョン師、ソ・ウォンハ師が司祭叙階、ユン・チョル神学生、チェ・ナグン神学生、イ・クォンヨン神学生が助祭に叙階されました。京都教区から大塚乾隆神父が参列し、大津教会、登美が丘教会の信徒も参列しました。

左　ラ・チヒョン師　　右　ソ・ウォンハ師

5月15日～18日　済州教区「聖母の夜」行事参加と聖地巡礼

大塚司教が団長でホン神父同行、望洋庵シスター2名、コリアンセンタースタッフ1名、信徒7名、総勢12名が参加しました。

聖地巡礼

聖母の夜

姜司教様を囲んで

聖母の夜

6月　京都済州姉妹教区交流月間
済州教区司祭　来訪

京都済州姉妹教区
交流感謝ミサ

コ・ナミル神父　キム・ソクスン神父

6月28日～7月2日、済州教区のコ・ナミル神父、キム・ソクスン神父が来訪され、6月30日（日）河原町教会にて「京都済州姉妹教区交流感謝ミサ」を大塚司教と共同司式で捧げてくださいました。

滞在中、京都観光も楽しんでいただきました。

7月　済州教区助祭　来訪

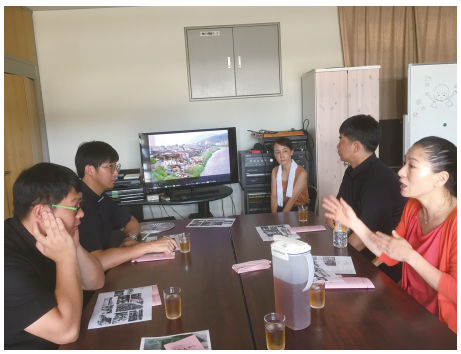
7月20日～8月9日、済州教区のユン・チョル助祭、チェ・ナグン助祭、イ・クォンヨン助祭が来訪されました。

ユン助祭は、京丹ブロック訪問とホームステイ、奈良ブロック研修。チェ助祭は滋賀ブロック訪問とホームステイ、京都北部ブロック研修。イ助祭は、奈良ブロック訪問とホームステイ、三重ブロック研修に行かれました。

7月26日、3人一緒に、東松ノ木団地訪問研修に行かれ、在日韓国人の方々と交流されました。

8月5日～7日、京都教区と済州教区の中学生と共に広島平和巡礼にも参加されました。

東松ノ木団地訪問



チェ・ナグン助祭　ユン・チョル助祭　イ・クォンヨン助祭

女声コーラス コーロ・チェレステ

感謝ミサ

2019年7月4日
河原町カトリック会館6階ホールにて

カトリック京都司教区女声コーラス（コーロ・チェレステ）は、故・東門陽二郎神父様が名付けてくださり、当時、田中健一司教様を顧問としてお迎えし、出前聖歌隊として発足し、今年で34年目となりました。その間、大塚喜直司教様と事務局長の北村善朗神父様の許可のもと、河原町カトリック会館6階ホールで月に2〜3回練習場所として使用させて頂いていましたが、以前からのお知らせのように、今秋を最後に建物が取り壊されることになり、名残り惜しさと感謝の気持ちに包まれておりました。

毎年、年の初めの練習日に、北村神父様から「今年の教区の予定ミサ・行事は、今のところこれだけですが、他にもまだ入りますので、歌の奉仕を宜しくお願いします」と予定表を頂きます。司祭叙階式・司祭叙階記念50周年（金祝）・25周年（銀祝）・聖香油ミサ・新信者のミサと集い・神父様方、ご両親の葬儀ミサ等々、ミサの中での歌の奉仕のために、練習に力が入ります。加えて、花井拓夫神父様のご指導のもとで2年に1度、クリスマスの頃には、会員全員で刑務所に慰問にまいります。花井神父様のお話の後、唯一教会以外の晴れの舞台でクリスマスソングを数曲、最後は皆さんと一緒に歌い余韻を残して帰ってまいります。

この奉仕も一昨年で最後になり、数えて14回、そのための練習も全て、灼熱の太陽が射す真夏も、小雪舞う吹雪の日も冷暖房の中、心地よいこのホールで練習させて頂いていました。きっとこの歌声が壁にも、天井にも、そして扉にもしみ込んでいると思い、最後にこの6階ホールの練習場所での感謝ミサの司式を北村神父様にお願いいたしましたところ、こころよく引き受けて下さりました。

7月4日の練習の後、静かな祈りの中で、黙想とともに、朗読、詩編、共同祈願、そして神父様のお話を聞き、祝福を頂き「平和の祈り」を神父様と会員一同で歌い、感謝のミサを捧げました。

コーロ・チェレステはこれからも、他の場所で練習をし、歌の奉仕活動を続けて行きます。この奉仕活動に、神様のお恵みがありますように、皆様のお祈りを、よろしくお願いいたします。

（文責 岡田久美）

大塚司教の ９月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka

１日㊐-２日㊊ 釜石・大船渡教会ミサ・
カリタス南三陸・カリタス南相馬訪問
４日㊌ 14:00 中央協 長期修繕委員会
５日㊍ 10:00 中央協 常任司教委員会
15:00 東京カトリック神学院
常任司教委員会
７日㊏ 10:30 小教区評議会役員交流会
（河原町教会）
８日㊐ 11:00 奈良ブロック
国際ファミリーデー（奈良教会）
９日㊊ 15:00 司教顧問会
10日㊋ 16:00 青少年委員会
12日㊍ 19:00 いのち・平和・環境委員会
13日㊎-19日㊍ 教皇訪日準備（ローマ）
20日㊎ 11:00 中央協議会 会議
22日㊐ 10:00 三重北部ブロック
国際ファミリーデー（海星中学校・高等学校）
23日㊊ 滋賀ブロック 国際ファミリーデー
（草津教会）
24日㊋ 14:00 福音宣教企画室
25日㊌ 10:30 司祭・司牧者集会
（河原町カトリック会館）
29日㊐ 11:00 大和八木教会創立60周年ミサ

９月のお知らせ

教　区

聖書委員会／Tel.075(211)3484 ㊌㊍
聖書講座
旅する神の民 私たち 皆 寄留人
－共に住み、共に歩む－
日　時：12日㊍ 10:30
テーマ：バビロン捕囚
（解放 - 祖国への回帰）
講　師：阿部 仲麻呂師（サレジオ会）
日　時：26日㊍ 10:30
テーマ：あなたの隣人とは誰か
講　師：澤田 豊成師（パウロ会）
会　場：河原町教会 ヴィリオンホール
よく分かる聖書の学び
日　時：18日㊌ 10:30
講　師：北村 善朗師／参加費：300円
会　場：河原町教会 ヴィリオンホール

修　道　会

男子カルメル修道会（宇治修道院）
Tel.0774(32)7016 Fax.(32)7457
土曜の黙想（Sr. ロサ）
日　時：21日㊏ 13:00～18:00
テーマ：御国が来ますように
参加費：2,000円
一般のためのカルメル霊性（中川 博道師）
日　時：28日㊏ 17:00～29日㊐ 16:00
テーマ：聖テレーズの黙想会
参加費：7,500円

諸　団　体

京都カトリック混声合唱団
練　習：８日㊐ 14:00／22日㊐ 14:00
28日㊏ 18:00 ミサ奉仕後（練習場所未定）
コーロ・チェレステ（女声コーラス）
練　習：12日㊍ 10:00／26日㊍ 10:00
河原町教会聖堂２階楽廊
聴覚障がい者の会
黙想会
日　時：17日㊋ 11:00～15:00
場　所：唐崎メリノールハウス
指　導：ジャクソン師
参加費：無料（弁当持参）
申込要：Tel・Fax.075(822)3548 岡本
心のともしび　番組案内
テレビ（衛星スカパー.ケーブル）スカイＡ
毎週土曜日 朝７:45
シリーズ「自分を深く知るために」
出演は Sr. 小野 恭世（イエズス孝女会）
ラジオ（KBS京都）㊊～㊎ 朝５:55
㊏ 朝５:15
９月のテーマ「わたしが抱く平和」

10月のお知らせ

聴覚障がい者の会（どなたでも参加可）
手話表現学習会（聖書と典礼）
日　時：10月３日㊍ 13:00～15:00
場　所：希望の家地域福祉センター
（京都市南区東九条東岩本町31）
問合せ：Tel・Fax.075(822)3548 岡本

※ 11月号の原稿締切り日は９月18日㊌です。